

歴史（要約）

伊勢志摩には、海によって形づくられた生活の、豊かで長い歴史があります。アワビを取るための3000年前の道具が発掘されたことがあります。また、西暦745年にまでさかのぼる、伊勢志摩の大王町での海産物の取引についての記録もあります。これは、何千年もの間、シーフードがこの土地の人々を支えてきたことを示しています。

約2000年前、太陽の女神、天照大神を祀るために日本で最も重要な神社である伊勢神宮が建立されました。伊勢志摩の上質な魚介類や農産物は、この地への評価をさらに高まりました。伊勢志摩は、神や朝廷に食糧を供する栄誉が与えられた土地『御食国』に指定されました。

16世紀の軍事的激変の間、九鬼嘉隆(1542～1600)は戦の有力な陣営の水軍武将として名を成しました。戦国時代が終わり、250年間の平和の間に道が改善されました。これにより、さらに多くの人々が伊勢神宮への巡礼できるようになり、日本の人口の約6分の1がこの聖地を訪れることができるようになりました。同時に、伊勢志摩と江戸（現在の東京）、大阪の間の交易が盛んになり、その結果、富や文化の交流が行われました。